

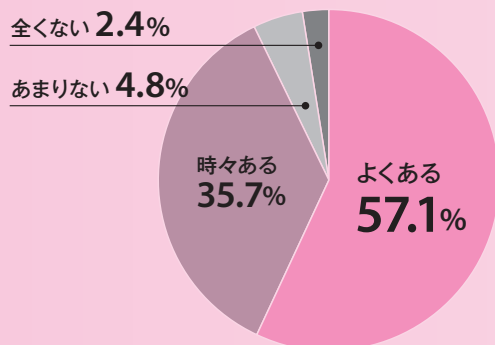
学びと指導の 連続性を深める 中高連携

2016年末に中央教育審議会から公表された次期学習指導要領に関する答申でも述べられているように、各学校段階で身につけさせておくべき力を相互につないでいくことが、今後ますます重要になる。しかしながら、高校現場では、「中高連携」の必要性を感じつつも、まだ十分な連携ができていないと、言えないのが現状のようだ。そこにはどのような課題があり、それはどうすれば解決できるのか。今号は、「中高連携」の現状と課題を整理し、

中学校と高校での学びと指導の連続性をより深めていくための「中高連携」のあり方を考えていく。

中高連携に対する高校教師の意識

Q. 普段のご指導の中で、「中高連携」の必要性を感じられることはありますか。



よくある・時々ある理由

- ◎小中、中高、高大の接続が、今後の教育改革の鍵であると感じるため。(東京都)
- ◎生徒は、中学校までにアクティブ・ラーニングの視点による主体的・対話的で深い学びを経験して高校に入学してくるが、高校では授業がなかなか変わっていない現状がある。(福島県)
- ◎企業の各部署が連携して常識を超えるようなことを生み出し、競争力を維持しているのと同じように、中高が連携し、学習・スポーツ・文化などの活動を展開する利点は多いと考える。(徳島県)

あまりない・全くない理由

- ◎何をどうすれば連携できるのか、全く分からない。(青森県)
- ◎義務教育である中学校の教員と高校の教員では、教育に対する価値観が全く異なり、そのベクトルの方向を一致させることは難しいと思う。(静岡県)
- ◎本校に入学予定の生徒に対してのみ、本校の教育と連続する内容で指導できれば、中学校、高校、そして生徒も得るところが大きいと思うが、様々な生徒が同じ教室で授業を受けなければならぬ今の中学校にそれを望むのは無理だと考えている。(茨城県)

出典／『VIEW21』高校版読者モニターへのアンケート結果（アンケートは2016年12月にウェブとファクスで実施。回答数は42）

本号のテーマ

「中高連携」の現状と課題を踏まえて、その進め方と価値、
これからの「中高連携」のあり方を考える

中高連携の現状と課題

現状把握【P.4~5】

- ◎変化の激しい社会を生きる上で必要な力を育成するため、幼小、小中、中高、高大の学びの連携がこれまで以上に重要になってきている。
- ◎学校段階を超えた連携・接続について、小学校、中学校、高校のいずれにおいても、大半の教師は「うまくいっており、課題はない」と現状を評価している。
- ◎しかし、連携の取り組み内容を詳しく見ていくと、中学生が高校を見学する機会を設けたり、中学生に関する情報を高校に共有したりする取り組みは比較的多く行われている一方、教師がお互いの授業を見学したり、合同研修を行ったりするなどの、指導内容にまで踏み込んだ取り組みができていないところは少ない。
- ◎そうした現状の背景として、中高での指導観の違いや、その違いを認め合い、ともに考える姿勢の不足が連携の壁となっている。

「中高連携」の進め方と価値を考える

実践事例 1

島根県立松江北高校
同松江南高校
同松江東高校
松江市全中学校
【P.6~9】

中高連携の概要

- ◎県全体の学力向上を牽引すべく、松江市の公立普通科高校3校と市内の全中学校が、研修会を年1回開催。
- ◎学力や学習状況、教育環境の変化など、幅広い視点での情報共有を進めるとともに、テーマを設けた意見交換等も行う中で、双方の指導に関する課題や思いへの理解が深まり、ともに解決策を考えていける関係が構築されている。
- ◎今後は、若い世代に引き継ぎ、継続・発展させていくことが課題。

連携のポイントと、そこから生まれている価値

- ◎互いの指導の成果やよい点を尊重しながら、情報共有を進めることが重要。その中で、中高で共通の課題や目標が明確になり、県や市全体として抱えている教育課題の解決につなげることができる。

実践事例 2

熊本県立
宇土中学校・高校
【P.10~13】

中高連携の概要

- ◎少子化が進み、学区再編に伴い市街地への生徒流出が懸念される中、地域の拠点校としての求心力を高めるべく、中高一貫教育校となった。
- ◎高校籍の教師が中学校で授業を行ったり参観したりすることで、中学校と高校の指導の違いを実感し、中学校での学びの実態を踏まえた指導改善に結びつけている。

連携のポイントと、そこから生まれている価値

- ◎互いの指導を実体験することが重要。その中で、目の前の生徒に関する課題の背景や理由が明確になるとともに、中学校での指導の流れをくんだ高校での指導を実践することにつながり、6年間を通して、生徒の力を最大限に伸ばしていくことができる。

これからの「中高連携」のあり方を考える

これからの
「中高連携」のあり方を
語る
【P.14~17】

中高と地域が連携し、生徒がこれからの時代を生きる力を豊かに育む

中学校、高校
校長



古河市立
総和北中学校 校長
森田泰司



茨城県立
古河第三高校 校長
福島克郎

保護者



古河市立
総和北中学校
PTA会長
篠崎克佳



古河市PTA連絡協議会
前会長
鶴見尚司